

平和・人権課×図書館 連携企画展示

## 「女性に対する暴力をなくす運動」 ブックリスト

令和4年11月 多摩市立図書館



毎年11月12日から11月25日は、国の「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。  
(内閣府男女共同参画局HP)

[https://www.gender.go.jp/policy/no\\_violence/no\\_violence\\_act](https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/no_violence_act)

### 多摩市の発行資料

書名	著者
出版社	出版年 請求記号
第4次多摩市女と男がともに生きる行動計画—ジェンダー平等と多様な性と生を尊重する社会の実現に向けて 令和3年(2021年)~令和12年(2030年)	くらしと文化部 平和・人権課／編集
多摩市	2021年 Kウ 367
男女平等と自立に支えられた男女共同参画社会の実現に向けて策定されたもの。女性に対する暴力の防止に向けた市の基本計画として位置付けられている。	
たまの女性(パンフレット資料) 第61号(2018年9月)~	多摩市くらしと文化部平和・人権課／編
多摩市	2018年~ Kウ 367.05
女性問題についての広報誌。第1号から第60号までは製本した図書として所蔵あり。	



### 近年の動き-雑誌から-

書名	出版社	出版年
『法律のひろば』 2021年7月号		
ぎょうせい		2021年
特集「男女共同参画社会の実現 -すべての人が輝く社会へ-」 p23~29に、小西聖子氏による「女性に対するあらゆる暴力の根-性犯罪・性暴力対策について-」 p30~36に、戒能民江氏による「DV防止法改正に向けて」		

### DV(ドメスティック・バイオレンス)

書名	著者
出版社	出版年 請求記号
夫が怖くてたまらない	梶山寿子／著
ディスカヴァー・トゥエンティワン	2016年 367.1
DVから被害者がなぜ逃げられないのか、また加害者の心理、子どもへの影響を、何人かの女性の体験を通して解説。脱暴力への取組みとしてアメリカの加害者更生プログラムについても紹介。	
DVはなおせる!—加害者・被害者は変わる—	栗原加代美／著
さくら舎	2021年 367.1
DVとは、力で相手を支配しようとする関係性のことと著者は述べている。まずはDVの被害を受けていないか、自分がDVをしていないかを気づくことから。そしてそれぞれ被害者・加害者の状況を知り、加害者が変わることを目指す「DV加害者更生プログラム」を紹介する。パートナーといい関係築く方法も解説。	
家庭モラル・ハラスメント	熊谷早智子／著
講談社	2008年 367.3
長年、夫の放つ言葉や態度に怯え、傷ついた著者は、それがモラル・ハラスメントであることを知る。そこから脱出するために、調停をへて離婚するまでを綴る。	

書名	出版社	出版年
家族と国家は共謀する—サバイバルからレジスタンスへ—	信田さよ子／著	
KADOKAWA	2021年	367.3
熟練のカウンセラーによる、家庭という「無法地帯」でおこなわれるDVと虐待をめぐる論考。		
中学生・高校生のためのDV、暴力予防教育プログラム	須賀朋子／著	
かりん舎	2020年	367.68
DV、暴力は「相手を尊重する」という考えが欠けているときにおこるもの。「尊重できる会話」のロールプレイを取り入れDV、暴力の被害や加害を未然に防ぐ。		
DV・ストーカー対策の法と実務	小島妙子／著	
民事法研究会	2014年	367.1
第1章では2013年6月に改正された「ストーカー規制法」と「DV防止法」についての解説を、第2章では保護命令の申立て・審理と離婚手続きを中心に、支援者向けに解説する。		

### 面前DV 子どもの前での夫婦間の暴力

書名	出版社	出版年
DV後遺症に苦しむ母と子どもたち—家族「面前」暴力の深層—	林美保子／著	
さくら舎	2022年	367.1
DVから逃れた後も、フラッシュバックや、自律神経失調などさまざまな不調に悩まされる。目撃していた子どもにも心身の不調を引き起こす。DV家庭に育った著者が、被害者や支援団体、精神科医にも取材し、DV後遺症のメカニズムを明らかにする。		
面前DV、虐待被害者の叫び	須賀朋子／著	
かりん舎	2020年	367.6
子どものとき両親のDVを見ていたり、親から虐待を受けて育った10代から50代までの11人が語った記録。		

## 面前DV 子どもの前での夫婦間の暴力 続き

書名	著者
出版社	出版年 請求記号
DVにさらされる子どもたちー親としての加害者が家族機能に及ぼす影響ー 新訳版	ランディ・バンクロフト／著 ジェイ・G.シルバーマン／著 幾島幸子／訳
金剛出版	2022年 367.3
DVと子どもへの虐待を別個の問題としてではなく、「加害者としての親が家族機能に与える影響」とい包括的な視点から論じる。	
虐待とDVのなかにいる子どもたちへーひとりぼっちじゃないよー 新版	チルドレン・ソサエティ／著 堤かなめ／監修 アジア女性センター／訳 本多須美子／訳
明石書店	2016年 36
家族から暴力を受けたり、親が暴力をふるっているのを見ている子どもが、どんな気持ちになるのか、また自分の感情に向き合って虐待や暴力が自分のせいではないことを理解し、周りの人や機関に助けを求めていることを、教えてくれる本。	
ボクの冒険のはじまりー家のケンカはかなしいけれど…ー	プルスアルハ／著
ゆまに書房	2015年 36
お父さんはお母さんをときどきたたき、お母さんは子どものリクをたたく。ある日、リクはお腹が痛くなって保健室に初めて行くと、保健室の先生はリクを温かく受け入れて、両親のケンカはリクのせいではないことを教えてくれる…。巻末に大人向けの解説と相談先も掲載。	

## デートDV

書名	著者
出版社	出版年 請求記号
デートDV予防学ーシングル単位思考法でわかるー	伊田広行／著
かがわ出版	2018年 367.68
恋人や家族であっても、「相手は相手、自分は自分」とお互いの存在を切り離すシングル単位の考えを持つことで、相手の「安全・自信・自由・成長」を奪うDVを予防する。恋愛のトラブルの「嫉妬」と「別れ」も取り上げている。日常での人間関係の対処法にも役立てる本。	
レンアイ、基本のキー好きになっただけでもOK?ー	打越さく良／著
岩波書店	2015年 Y 152.1
好きな相手を知らず知らず束縛していないか、我慢をしていないかなど、様々なケースから恋愛のルールを紹介。デートDVの被害にあった時の具体的な対処法は、巻末に相談窓口の一覧あり。	
3万人の大学生が学んだ恋愛で一番大切な“性”のはなし	村瀬幸浩／著
KADOKAWA	2020年 367.9
「人間と性」についての大学での講義の概略と学生の声、感想、意見の双方向を収録した内容。第1章に「デートDV」について解説。	

## 性暴力

書名	著者
出版社	出版年 請求記号
裸足で逃げるー沖縄の夜の街の少女たち	上間陽子／著
太田出版	2017年 367.68
沖縄で暴力を受けて育った少女たちが居場所を求めて逃げ出し、今度は恋人や知らない男たちから暴力を受ける。10代で子どもを産んで育てる少女もいる。彼女たちの話にひたすら寄り添い聞き取って描いた記録。	

書名	著者
出版社	出版年 請求記号
わたしは黙らないー性暴力をなくす30の視点ー	合同出版編集部／編
合同出版	2021年 368.64
性暴力について語ろうとする人の口をふさぎ続けていた社会の中で、声を上げ続けてきた人たちが、それぞれの立場で性暴力の現状やそれらをめぐる課題、これまでの動きとこれからについて述べている。	
告発と呼ばれるものの周辺で	小川たまか／著
亜紀書房	2022年 368.64
性犯罪や性暴力に対して声をあげても、なかなか信じてもらえない。取材や裁判を傍聴するなどして、社会にまだ届かない女性、男性、支援者たちの声を集積する。2017年の性犯罪刑法の改正から、日本での#metoo運動、続くフラワーデモへの動きも記述。	
少女だった私に起きた、電車のなかでのすべてについて	佐々木くみ／著 エマニュエル・アルノー／著
イースト・プレス	2019年 F2 卅
少女クミは12歳から18歳までの6年間、電車通学で痴漢被害に遭い続ける。母親に告げると、「あなたも悪いのよ。」と言われ、さらに傷つく。実体験を小説化してフランスで出版された作品の邦訳。	
ブラックボックス	伊藤詩織／著
文藝春秋	2017年 F1 卅
信頼していた人物からレイプ被害を受けたジャーナリストが自ら被害者を取り巻く現状に迫る、ノンフィクション。	
男が痴漢になる理由	斉藤章佳／著
イースト・プレス	2017年 368.64
再犯防止治療に携わる専門家が、拍子抜けするほど「普通の男性」が、不特定多数に痴漢行為を働く動機や実態について解明し、痴漢撲滅への方策を探る。	
性暴力被害の実際ー被害はどのように起き、どう回復するのかー	齋藤梓／編著 大竹裕子／編著
金剛出版	2020年 368.64
性暴力被害を受けた当事者による「語り」から、回復への道のりと、必要な支援を考える。相談先一覧も掲載。	

